

「しまねの里山と世界をつなぐ縁結び
プロジェクト2021 in 邑南町」
～ハイブリッド事業の取り組みについて～

島根大学国際センター
特任助教

キャサリン・シンプソン

k.simpson@soc.shimane-u.ac.jp

本日のスケジュール

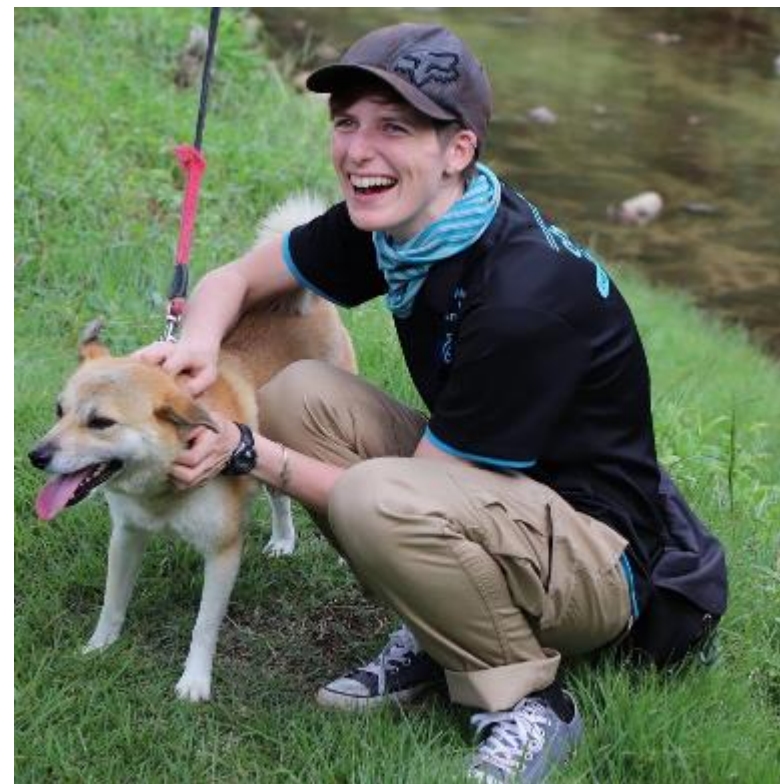
1. 自己紹介
2. 島根大学の紹介
3. 事業の概要
4. 実施形態について決定の経緯
5. 事業実施に係る苦勞、創意工夫したところ
6. 所感・反省点
7. 今後の展望



SHIMANE
University

1. 自己紹介

- 2016年4月～2019年3月
 - 邑南町役場商工観光課 国際交流員
- 2019年4月～現在
 - 島根大学国際センター 特任助教



※このプロジェクトは12年目になりますが、そのうち6年間は直接関わってきました。



2. 島根大学

- 1949年に設立された国立大学
- 2つのキャンパスが松江市と出雲市にある
 - 松江キャンパス: 法文、教育、人間科学、総合理工、生物資源の5学部
 - 出雲キャンパス: 医学部
- 学部生: 約5,300人
- 院生: 約700人
- 外国人留学生: 約220人 (23カ国)
※母国待機の外国人留学生を含む



3.事業の概要（例年）

- 本学留学生が島根県邑南町を訪れ、地元の人と交流
- 平成22年(2010年)にスタート
- 目的:地域活性化、異文化理解の促進、昔ながらの日本の生活体験など
- 主な内容:
 - 異文化交流、文化体験
 - 地元の方との交流、小学生との交流
 - 民泊体験

※新型コロナウイルスの影響で、2020年と2021年はオンライン実施

島根県と邑南町について



邑南町について

- 邑南町は島根県の中央に位置しています。
- 人口 10,194人（現在令和3年12月31日）
- 面積 419.29 km²







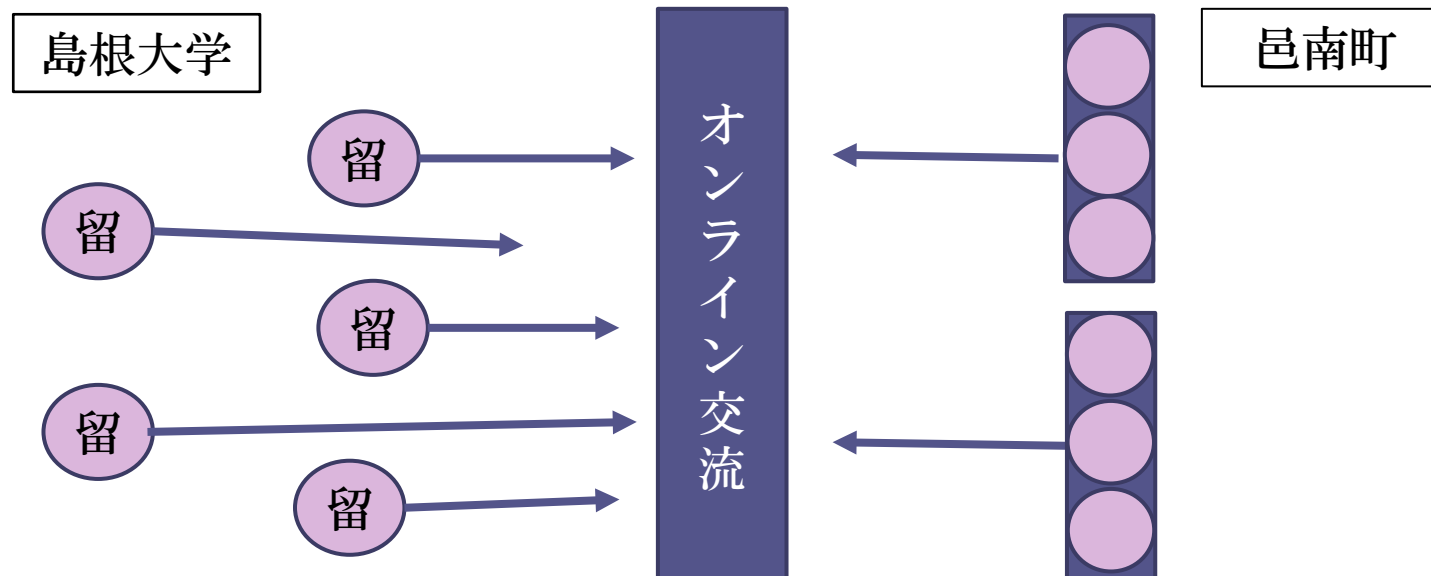
事業の概要（今年度）

- オンライン交流へ変更
- 第一回：ボランティア通訳ガイドの団体とのオンライン交流会
- テーマ：地元の「教育」と「福祉」
- 方法：ハイブリッド
ガイド→公民館、外国人留学生→自宅
- 参加人数：ガイド9名と留学生7名

※ 邑南町側はどうしてハイブリッドにしたのか後程説明します

4. 実施形態について決定の経緯

- 事業1か月半前、邑南町でコロナ感染者確認
- 10年以上の交流を絶やさないためにも、開催決定⇒オンライン
- 通信環境などの問題から、邑南町側はハイブリッドでつなぐ
- メリット：母国待機中の留学生も参加可能



新型コロナウイルスの状況

邑南町内の感染者数

▫ 令和3年7月31日 町内13例目



この間、感染者ゼロ！

▫ 令和4年1月12日 町内19例目

島根県内

▫ 県内714例目

注目！
オンライン交流実施
令和3年9月18日

5. 事業実施に係る苦勞、工夫したところ

年齢差

オンライン
+ 初対面

言語・発音

人数制限

時間制限

ネット接続

事業実施に係る苦勞、工夫したところ

- ① 邑南町のインターネット環境
- ② オンライン交流＋初対面
- ③ その他

① 邑南町のインターネット環境

- 44.9%の町民は高齢者
 - 自分のパソコンを持っている方
 - 自宅でネット契約している方
 - パソコンの使い方に慣れている方
 - ビデオ会議ソフトに使い慣れている方

少ない！

解決策：邑南町側は公民館で集まる！

②オンライン交流＋初対面

課題	解決策
①留学生は日本語がわかる人と英語のみわかる人に分かれている	「日本語グループ」と「英語グループ」に分けた
②ガイド団体の中には、英語でコミュニケーションをとる自信がない方が数名いた	留学生から事前に邑南町の教育や福祉についての質問を提出してもらった
③オンライン交流の最中に会話が止まってしまうことがある	各グループにモデレーターを入れた

グループの様子

英語グループ



日本語グループ



③その他

- 初対面：留学生とガイドそれぞれに事前オリエンテーションを行った
- ネット環境：ネット環境が良い公民館を探した
- ソフトの使い方：慣れている若いボランティアに手伝ってもらった
- コロナ対策：邑南町の方が密にならないため、2グループに分け、2つの部屋から交流した（「日本語グループ」と「英語グループ」）

6. 所感・反省点

所感

- 母国待機の留学生に交流機会を提供できた
- ガイドはコロナ禍でも誰かに邑南町を紹介する機会ができた
- コロナ禍でもお互いに異文化理解を促進するイベントができた

反省点

- 各グループモデレーターは本学の教職員を配置すべきであった
- 邑南町の紹介を事前に確認しておくべきだった（長かったため）
- 日英・英日の通訳が要るため、時間を調整する必要があった

参加者の感想

- 通訳ガイドの方より

- ◻ 「邑南町について興味をもって、どんどん質問してくれて嬉しかった」
- ◻ 「この交流は地元の再認識につながった！邑南町にも福祉の設備が整っているなと感じた」
- ◻ 「交流のおかげで邑南町のことを誇らしく思えた」

- 外国人留学生より

- ◻ 「邑南町のことを丁寧に紹介されて、町のイメージづくりに役立ったと思う」
- ◻ 「邑南町の方々の話はとても面白くて、時間があればもっと聞きたいと思った」
- ◻ 「今後対面で参加できる機会があれば、ぜひ参加したいと思う」

7. 今後の展望

- 「交流」を実感できるオンラインイベントの開催
- 10年以上の交流実績を踏まえ、新たな事業形態をめざす
⇒ 「地域課題解決」型プロジェクト

これまで... 教育機関/福祉施設/企業 への訪問
伝統文化体験/料理体験



ここから見えた地域の課題に、現地の人々と留学生が一緒
になって解決に向けて取り組む



新たな価値の創造

ご清聴ありがとうございました。

